

学校法人純真学園
純真短期大学
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

純真短期大学の概要

設置者	学校法人 純真学園
理事長名	福田 庸之助
学長名	目瀬 道弘
ALO	石橋 孝明
開設年月日	昭和32年4月1日
所在地	福岡県福岡市南区筑紫丘1-1-1

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
食物栄養学科		80
こども学科		100
	合計	180

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

純真短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成22年3月18日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成20年7月3日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は「気品・知性・奉仕」という建学の精神・学訓を基軸として、女性の人間的尊厳の確立と社会的地位の向上に加えて、平成19年度からは男女共学の短期大学として建学の精神・教育理念を確認している。各学科の教育目的・教育目標は学生便覧等に明記されており、教職員や学生にくり返し周知徹底され、点検・検討も行われている。

教育の内容は、全体として、まとまった教育課程が編成されている。授業評価アンケート等により活性化された教育内容の改善が施されている。

専任教員数、校地・校舎は、短期大学設置基準の規定を充足している。また、講義室、演習室、実験・実習室が十分に用意され、図書館の広さや蔵書冊数も十分である。

授業の単位の認定方法や学習評価は適切である。学生に対するケアは早期に掌握できるシステムになっている。入学時等のオリエンテーションの中でも授業や学生生活の情報を十分に提供している。学習面は、クラス担任が週1回のクラスアワーで欠席確認などの情報交換をして、学習生活支援をきめ細かく行っている。進路支援は、就職委員会とキャリアセンターの専任スタッフとの連携により組織的に行われている。

教員の研究活動は、各教員の著作、論文、学会発表数等からみて総合的に妥当な数であり成果をあげている。社会的活動は、両学科によるこどもまつりを通じた近郊のこどもたちとの交流、さらにこども学科では、地域の子育てサークルとの短期大学施設を開放した交流が行われており、地域に根ざした子育て支援の取り組みが行われている。

管理運営については、理事会、評議員会などは寄附行為の規定に基づいて適切に運営されている。

自己点検・評価活動は自己点検・評価委員会によって行われ、その結果を大学の改革・改善に生かしている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 新入生のオリエンテーションなどで、各学科の教育目的や教育目標が学生に対して周知されており、継続的な努力がみられる。理事会や評議員会、教授会においても、定期的かつ継続的に検討されており、教職員にも共有されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生の多様なニーズにこたえ、多数の専門科目に加え、複数の外国語系を含む教養科目の受講が可能である。設置する学科の関係で講義科目が多くなっているが、選択科目で演習と講義のバランスを保っている。また、数多くの資格取得への配慮がなされている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 食物栄養学科では、栄養士、フードスペシャリスト、健康管理士一般指導員の資格取得者の割合が高く、こども学科では、保育士、幼稚園教諭二種免許状、社会福祉主事任用資格が同様に高い。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域の子育てサークルである「ふたごの会」や「みなみちゃいるどNET」の子ども達に短期大学を開放して、パネルシアターなどの上演による子育て支援をしている。
- 高等学校との高大連携をはじめ、高校生に短期大学の授業を体験させるなど、進路教育に貢献する試みをしている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 事務職員個々のレベルアップを図ることにより、中・長期的視野での事務組織の強化が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 余裕資金はあるものの、学校法人全体及び短期大学部門の収支バランスの改善が望まれる。
- 短期大学全体の入学・収容定員の充足率をあげるよう努力されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学は「気品・知性・奉仕」という建学の精神・学訓を基軸として、女性の人間的尊厳の確立と社会的地位の向上に加えて、平成19年度より男女共同参画社会の実現を目指し、人間形成を行い、職業又は實際生活に必要な能力を育成して社会に貢献できる有能な人材を育成することを教育目標としている。各学科の教育目的・教育目標は、学生にくり返し周知徹底され、理事会・教授会・役職者研修会などでも点検・検討が行われている。年間の学校行事を通じて、教育目的・教育目標等を実現するために、教職員間で共有が図られている。学生便覧やウェブサイトの中の「大学案内」において教育目的や教育目標は明記され、外部からも見てとれるように工夫されており、理事会や評議員会、教授会においても、定期的かつ継続的に議論され検討されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

全体として、授業内容に応じたクラスの規模も適切であり、設置された学科の卒業要件は学生に理解しやすい表現となっており、よくまとまった教育課程が編成されている。学生の多様なニーズにこたえるべき教育課程が提供され、活性化された教育内容の改善が施されている。また、できるだけ幅広い学習機会を与えられるよう必修科目と同等程度の選択科目及び選択必修科目も設けられている。学生便覧には授業科目案内、授業科目履修規程が掲載され、講義要項には、授業概要、教科書、参考書などが記載され、事前に全学生に配布され、学生に対して授業内容、教育方法及び評価方法が適切かつ十分に周知されている。授業評価アンケートの結果を「授業改善報告書」にまとめ、学長に報告をしており、それによって、授業改善の課題が明確になり、各担当

教員のシラバス改善につながっている。組織的な取り組みとして、今年度からファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会を中心として、相互授業参観・評価、FD講演会、FD報告会、新任教員研修会、学生満足度調査を実施し、授業改善への意欲的な活動をしている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

設置されている学科では、短期大学設置基準の教員数の規定を充足している。また、教員の年齢構成はおおむねバランスが取れている。教員の授業担当、研究活動、学生指導、その他教育研究上の業務にも意欲的であることがうかがえ、教育活動等の補助として、助手も各学科に配属されていて、適切な教員組織等が整備されている。360人の収容定員に対し、校地・校舎ともに、同設置基準以上あり、学生の教育環境としては、十分に備えられている。図書館の広さ、蔵書冊数ともに十分といえるが、司書の人数については、今後検討すべき課題がある。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位の認定は、おおむね講義科目に関しては総合評価を、演習科目に関しては試験・出席などにより評価を行っており、単位認定状況・評価状況はおおむね適切である。休学、留年者数については、学生数からみても特筆するものではない。こども学科の場合、平成19年度には退学者数が在籍者数の2割を占めていたが、担任や学科長の学生に対する早期な対応によって平成20年度には改善されており、学生に対するケアについては早期に掌握できるシステムになっている。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学案内では建学の精神のもとに教育方針を明示し、さらに学生募集要項でも望ましい学生像を明示し、多様な選抜試験によって学生募集が行われている。授業や学生生活の情報は、入学時等のオリエンテーションやクラスアワーの中で十分に提供されている。学習面では、クラス担任が各教科担当と欠席確認などの情報交換による支援が行われている。学生を取り巻く学内共通問題やマナー改善など、生活指導に関することは教職員間の組織を通じ問題の共有化が図られ、週1回のクラスアワーによる学習、生活支援が担任を要にきめ細かく実施されている。進路支援は、就職委員会と、設備等が充実したキャリアセンターの専任スタッフとの連携により組織的に活動している。クラブ活動や自治活動組織である学友会も学生課等を中心にサポートがなされ、食堂は食育の観点からもメニューなどに工夫が認められ、校内の憩いの場も十分である。経済的支援では、短期大学独自の授業料免除や入学金免除の制度が確立され、また通学不可能な学生のために学生寮を完備し、学生生活の経費の面からも支援している。

評価領域Ⅵ 研究

教員の研究活動は、各教員の著作、論文、学会発表数等からみて総合的に妥当な数で成果をあげていると考えられる。毎年発行されている「純真紀要」は、近隣の短期大学等に報告、広報されている。外部資金の調達については科学研究費補助金が採択されている。専任教員には研究室が割り当てられ、研究を行う研修日も十分に確保されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

平成 20 年度、食物栄養学科では卒業生や近隣の栄養士を対象に管理栄養士国家試験の受験希望者に「管理栄養士受験対策講座」を、こども学科では「子育て楽しむ社会を目指して」と題する公開講座を開催している。また、両学科による近郊の保育園児を招いた「こどもまつり」での交流、こども学科では地域の子育てサークルの子ども達にパネルシアターなどを通じた交流が短期大学施設を開放して実施されている。

さらに、南区保健福祉センター主催のイベントに遊びコーナーを担当するなど、地域に根ざした子育て支援やクラブによる演奏活動等の取り組みの努力が認められる。

また、高等学校との高大連携を始めている。

評価領域Ⅷ 管理運営

学校法人の運営全般に理事長・学長のリーダーシップが適切に発揮され、大学の運営に強い使命観をもってあたっている。理事会及び評議員会は寄附行為の規定に基づいて適切に運営されている。事務組織は事務規程に基づき適切に運営されている。ただし、早期に事務組織の縮小・簡素化を終結させ、事務職員個々のレベルアップを図ることにより事務組織を強化することが望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

財務運営は確認した範囲では、適切に行われていると判断される。財務情報の公開に関しては、閲覧希望者へ許可をしている。財務状況については、余裕資金があるものの、学校法人全体及び短期大学部門ともに収支バランスが悪化している。さらに、過去 3 ヶ年の食物栄養学科とこども学科の入学定員充足率及び収容定員充足率は、いずれも低い状態が続いている。この点を理事長及び学長は十分把握し、中・長期計画を立て、その実現に努力している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価活動には全員で取り組み、その結果を大学の改革・改善に生かしている。また、作成された報告書は理事会及び学内主要関係者に配布し、学外に対して

は、本協会をはじめ、他の短期大学にも配布している。

教職員一人ひとりが理事長・学長の強いリーダーシップのもとに意識改革を行い、更なる大学の発展のために、教育内容の改善や教育の実施体制の見直しに努力している。相互評価については、現在未実施の状態にあるが、実施に向けて検討している。